

資料8-1

藤枝市における災害(風水害)の記録

1. 明治43年の水害

明治43年8月の水害は、人的・物的被害とも極めて甚大な被害であった。

災害の誘因は、四国南方海上に達した台風が7日頃より当地に雨を降らせ、11日房総沖に去るまで連日大雨をもたらしたため、その雨量は7～9日の3日間で、藤枝で877mm、静岡で679mm、島田で777mmであった。

被害の状況は、瀬戸川に集中し志太堤防と稲川堤防が決壊したため、家屋の流亡、家財の流出がおびただしく死亡者も発生した。

2. 昭和35年8月の集中豪雨

8月12日夕方室戸岬付近に上陸し、13日夕刻前に三陸沖にぬけた台風は、静岡県の中・西部に13日の夕方から夜半にかけて雷を伴った豪雨をもたらし、9日から14日までの6日間の総雨量は、平野部で200mm～300mm山間部では400mm、瀬戸谷では1,000mmに達する記録的豪雨となった。その時の被害は次のとおりである。

〔青島・藤枝両地区の被害〕

①全壊戸数	19棟
②半壊戸数	61棟
③流失家屋	61棟
④床上浸水	392棟
⑤床下浸水	1,312棟
⑥死者	22人
⑦負傷者	5人

3. 昭和49年7月7日～8日 台風8号及び梅雨前線による被害

台風8号及び梅雨前線による市の対策動向は次のとおりである。

7月7日午後7時50分大雨警報・洪水注意報が発令され、午後8時20分に藤枝市水防第1配備体制を配置した。その後、午後10時00分に県災害対策本部が設置されたと同時に、藤枝市災害対策本部も設置された。この豪雨により葉梨川や藤岡三丁目などで増水のため消防分団による警戒を強め、午後11時50分藤岡三丁目に避難命令が出されたとともに、岡部町谷川口で全面通行止めや、瀬戸谷大出橋下流堤防の決壊が始まるなど被害が拡大していった。

7月8日午前1時44分藤岡三丁目の避難が完了し、午前2時20分には藤岡一丁目と二丁目に避難命令が出された。

このような被害状況のため、7月8日午前6時00分に災害救助法が適用された。この集中豪雨による藤枝市の被害状況は次のとおりである。

(1)被災世帯 1,601世帯

(2)被災人員 6,411人

(3)家屋被害

①全壊	4棟(非住)
②半壊	6棟(非住)
③一部破損	9棟(内非住2)

④土砂流入	6 4 棟
⑤床上浸水	6 6 4 棟
⑥床下浸水	7 6 7 棟
(4)土木関係被害	
①道路損壊	1 7 7 箇所
②河川被害	2 9 箇所
③橋梁流出	1 5 箇所
④崖崩れ	2 0 5 箇所
(5)農林関係被害	
① 水田冠水	1 9 2 h a
② 農地埋没	2 0 . 5 h a
③畑地崩壊	1 3 0 箇所 (7 h a)

4. 昭和57年9月10日～12日 台風18号による被害

台風18号の接近のため、市は9月12日午前11時20分に第2配備体制を敷き、午後1時30分には、藤枝市災害対策本部を設置し被害の情報収集や災害応急対策の活動を行った。市内では、朝比奈川や谷稲葉川などの堤防が決壊するなど、被害状況の拡大が各所で起こり、各地区で避難行動が取られた。午後4時35分に潮地区住民15名を広幡小学校へ避難誘導し、午後5時11分旭が丘満照寺裏山が決壊したため付近住民6世帯15人を藤枝中央小学校へ避難誘導した。危険区域内の住民は付近の公民館へ避難するよう消防署長が指令を出し、避難所では炊き出し等応急対策が行われた。市は、9月13日午前8時30分被害状況調査を行い、午後3時に災害救助法適用を県知事へ申請し、午後5時に災害救助法の適用を受けた。

台風18号のために受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

(1)人的被害				
①死 者	1 人			
②軽症者	3 人			
(2)住家被害				
①全 壊	5 棟	4 世帯	被害者数	1 9 人
②半 壊	3 棟	2 世帯	被害者数	1 1 人
③一部破損	5 棟	5 世帯	被害者数	2 7 人
④床上浸水	5 3 3 棟	5 0 6 世帯	被害者数	1, 9 7 3 人
⑤床下浸水	9 2 2 棟	8 7 5 世帯	被害者数	3, 2 1 4 人
(3)非住家被害 (物置、倉庫等)				
①全 壊	7 棟			
②半 壊	3 棟			
③一部破損	3 棟			
④床上浸水	4 7 7 棟			
⑤床下浸水	3 2 1 棟			
(4)土木関係被害				
被害総額	3 2 1, 0 0 0 千円			
(5)農林関係被害				

被害総額 4, 027, 000千円

5. 昭和58年8月16日～17日 台風5・6号による被害

台風5・6号により、8月16日午後1時00分に県災害対策本部が設置され、藤枝市は午後4時00分に水防第一次配備体制を敷いた。市は、17日の午前1時30分に市水防第二次配備体制を敷き、早朝4時00分に藤枝市災害対策本部を設置し、市職員110人、消防署員66人、消防団員244人を配備した。

被害の状況は、葉梨地区と時ヶ谷で床下浸水13戸の被害を受け、谷稲葉川左岸が一部欠損、葉梨川の広幡小学校橋付近の右岸でも一部欠損する被害が発生した。また、葉梨地区の高田や広幡地区の潮では、水田の冠水被害が発生し、各所で道路の通行止めなどの被害が発生した。その後、8月18日午前10時に藤枝市災害対策本部は解散した。

台風5・6号のために受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

(1)住家被害

①床下浸水 13棟

(2)土木関係被害（県）

①道 路 2箇所

②河 川 2箇所

(3)農林関係被害（市）

①田 畑 6ha（被害額 4, 000千円）

②農 道 8箇所（被害額27, 000千円）

③水 路 4箇所（被害額23, 500千円）

④その他 4棟（被害額 500千円）

（ビニールハウス）

6. 平成3年9月18日～19日 台風18号及び秋雨前線豪雨による被害

静岡県中部・西部に大雨警報が発令され、市は水防第一・二配備体制を敷き災害応急対策活動を実施した。

被害の状況は、藤枝バイパス、県道朝比奈・藤枝線、市道滝沢・滝ノ谷線などの道路が冠水や路肩欠損のため一部通行止めになった他、河川においては侵食による護岸ブロックの亀裂などの被害が報告されている。

台風18号及び秋雨前線豪雨のために受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

(1)住家被害

特になし

(2)河川の被害

①準用河川（左・右岸の侵食） 3件（被害額8, 400千円）

②普通河川（左岸の侵食） 1件（被害額3, 700千円）

(3)道路の被害

市道（左岸の侵食） 1件（被害額3, 000千円）

7. 平成15年7月3日～4日 梅雨前線による被害

7月3日から4日にかけて梅雨前線による豪雨災害が発生し、35棟が床上浸水、78棟が

床下浸水、3箇所で護岸崩壊等の被害が発生した。3日午後7時から4日午前5時30分までの総雨量（市役所）124.5mm、時間最大雨量は、3日午後10時から11時の間に35mmを記録した。（高根山230.5mm、最大時間雨量65.5mm）4日午前1時07分、朝比奈川横内橋で警戒水位を超え、午前1時32分には葉梨川八幡橋で警戒水位を超え、瀬戸川助宗橋で通報水位を超えた。

このため、市は水防第一配備態勢をとり、水防活動を実施した。水防活動は、本庁職員43名、消防職員27名、消防団員127名延べ197名が対応にあたった。特に4日午前2時30分頃、藤岡三丁目地先の葉梨川の水位が上昇し越水の恐れが生じた。4日午前5時35分大雨洪水警報が解除されたため、午前6時第一配備態勢を解除した。

7月3日～4日の梅雨前線豪雨のために受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

(1)住家被害

- | | |
|-------|-----|
| ①半壊 | 2棟 |
| ②一部破損 | 2棟 |
| ③床上浸水 | 35棟 |
| ④床下浸水 | 78棟 |

(2)土木関係被害

- | | |
|----------|------|
| ①護岸崩壊 | 3箇所 |
| ②崩土（道路） | 12箇所 |
| ③路肩・法面崩壊 | 5箇所 |
| ④橋台流出 | 1箇所 |

(3)農林関係被害

- | | |
|------|-----|
| ①山崩れ | 2箇所 |
|------|-----|
- （被害額120,450千円）

8. 平成16年6月30日 梅雨前線による被害

6月30日に梅雨前線による豪雨災害が発生し、26棟が床上浸水、103棟が床下浸水、58箇所道路冠水等の被害が発生した。

30日午前1時から午後1時までの総雨量241.5mm（市役所）を記録した。時間最大雨量は、午前9時から10時の間に65mmという記録的な降雨をもたらした。

同日午前5時25分に大雨洪水警報が発令され、午前8時40分に朝比奈川横内橋で通報水位を超えたため、市は水防第一配備態勢をとり対応した。消防機関は327名が出動し水防活動を実施した。

6月30日の梅雨前線豪雨のために受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

(1)住家被害

- | | |
|-------|------|
| ①床上浸水 | 26棟 |
| ②床下浸水 | 103棟 |

(2)土木関係被害

- | | |
|-------|------|
| ①道路冠水 | 58箇所 |
| ②河川越水 | 4箇所 |

(3)農林関係被害

- | | |
|------|-----|
| ①山崩れ | 2箇所 |
|------|-----|

9. 平成17年7月26日～27日 台風7号接近による上滝沢地区地すべりへの対応

7月9日の梅雨前線豪雨（総雨量173mm）により、上滝沢地区（椿山484m）で地すべりが発生した。

地すべりの規模は、幅100m、縦長160m、想定崩壊土砂量15万 m^3 。

7月26日台風7号が接近、台風の進路予測から直撃する恐れが生じたため、地すべり及び土石流の発生を懸念し、午前10時10分、藤枝市災害対策本部を設置した。

午後12時30分、台風7号の接近に伴い積算雨量が100mmを超え、今後予想される降雨量が350mm（静岡気象台発表）と推定され、地すべり、土石流発生の危険度が高まったため、上滝沢地区70世帯280人に対し避難勧告を発令した。

藤枝市災害対策本部は、藤の瀬会館及び瀬戸谷小学校体育館の2箇所の避難所を開設し、35世帯109人を受け入れた。

台風7号は、徐々に進路を東よりに変更し通過したため、午後6時25分に大雨洪水警報が解除された。翌日27日、大雨洪水警報が解除され14時間が経過し、滝沢川の水位も低下したため午前7時に避難勧告を解除し、午前8時30分藤枝市災害対策本部を解散した。

10. 令和元年10月12日～13日 台風19号による被害

台風19号の接近による大雨と暴風が予想されたため、藤枝市は「避難情報発令判断チーム」による検討を踏まえ、水防本部長への報告と承認を経て、11日の夜から指定緊急避難場所となる岡部支所、地区交流センター等12箇所で自主避難者の受け入れを開始した。12日の早朝から「避難情報発令判断チーム」での検討を進め、午前8時に藤枝市水防本部を立ち上げるとともに、瀬戸谷、稲葉、葉梨及び岡部地区の土砂災害警戒区域に「避難準備・高齢者等避難開始」、午前11時には、藤枝市災害対策本部に拡大し、市内全域の土砂災害警戒区域に「避難勧告」、水害と暴風を対象とした「避難準備・高齢者等避難開始」も全域に発令した。

その後、葉梨川の水位が上昇したため、午後2時に葉梨、広幡、西益津、藤枝地区の流域浸水想定地区に「避難勧告」を発令し、更に指定避難場所35箇所を追加開設し、全47箇所に1,826人の避難者を受け入れた。

藤枝市では、最大連続雨量462mm、最大1時間雨量60mm、また台風接近3時間前雨量149mmを観測するなど、24時間雨量では、大災害となった昭和57年9月の台風18号を上回る雨量を観測し、人的被害は無いものの内水等による床上浸水等の被害が発生した。

台風19号のために受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

(1)住宅被害

①床上浸水	30棟
②床下浸水	52棟
③土砂流入	1棟
④屋根等一部破損	19棟

(2)土木関係被害

①市道橋梁損傷	1箇所
②河川護岸損傷	1箇所
③道路冠水	31箇所
④倒木	8箇所

⑤崩土	1 3 箇所
(3)農林関係被害	
①農道路肩崩落	2 箇所
②崩土	1 2 箇所
③崩土倒木	5 箇所
(4)公園施設（蓮華寺池公園）	
①法面崩落	1 箇所
②土砂流出	4 箇所
③倒木	3 箇所

11. 令和3年6月30日～7月3日 梅雨前線の影響に伴う長雨による被害

長雨により土砂災害の危険性が高まり、7月2日午前6時30分に発表された「土砂災害警戒情報」を受け、藤枝市は「避難情報発令判断チーム」による検討を踏まえ、水防本部長への報告と承認を経て、同日8時に市内全ての土砂災害（特別）警戒区域に居住の5,163世帯14,923人の住民に対し避難指示を発令するとともに、指定緊急避難場所を開設した。その後、土砂災害の発生の危険性が下がったことで、7月3日午後4時55分土砂災害警戒情報が解除され、同日午後5時05分避難指示を解除するとともに、指定緊急避難場所を閉鎖した。

藤枝市では、山間部で最大連続雨量475mm、最大1時間雨量25.0mm、平野部で最大連続雨量332.5mm、最大1時間雨量33.5mmを観測し、昭和49年7月の「七夕豪雨」に次ぐ記録的な雨量を観測した。

梅雨前線の影響に伴う長雨により受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

- (1)住宅被害 特になし
- (2)土木関係被害（県） ①倒木 4 箇所
（市） ①道路冠水 3 箇所 ②倒木 1 箇所 ③崩土 1 箇所
- (3)農林関係被害 特になし
- (4)公園施設（蓮華寺池公園） ①法面崩落 1 箇所 ②倒木 1 箇所

12. 令和4年9月23日～24日 台風15号による被害

台風15号の接近による大雨により23日午後7時52分に土砂災害警戒情報が発表されたため、「避難情報発令判断チーム」による検討を踏まえ、水防本部長への報告と承認を経て、午後9時58分に瀬戸谷地区交流センター等11か所の指定緊急避難場所が開設されるとともに、午後11時37分に災害対策本部を立ち上げた。

藤枝市では、23日夜遅くから24日未明にかけて猛烈な降雨となり、記録的短時間大雨情報3回と大雨警報（土砂災害）の危険度分布レベル5を記録し、総雨量405.5mm（高根山）、時間最大雨量132.0mm（青島南）、24時間雨量403.0（高根山）mm、また台風接近3時間前雨量149mmを観測するなど、過去最大クラスの雨量を観測し、人的被害は無いものの、床上・床下浸水や道路冠水など、多数の被害が発生した。

なお、台風15号のために受けた藤枝市の被害は次のとおりである。

- (1)住宅被害
 - ①半壊 4 棟
 - ②一部損壊 6 棟

③床上浸水	1 8 0 棟
④床下浸水	1 1 7 棟
(2)土木関係被害	
①道路冠水	4 1 件
②崩土	1 4 2 件
(3)農林関係被害	
①崩土	1 5 9 件
②倒木	1 3 件
(4)公園関係被害	
①藤枝総合運動公園（土砂堆積ほか）	5 件
②蓮華寺池公園（崩土ほか）	8 件

資料8-2 静岡県地方に大災害を引き起こした台風

1. 昭和45年以前

年 月 日	被 害	気 象 概 要
明治33年9月28日	死者 1人 建物全壊 460戸 建物半壊 610戸	浜松付近に上陸 浜松最大風速 SE17.6m/S 日降水量 84mm 最低海面気圧 955.8mb
明治44年7月25日	死者 62人 (漁船の遭難による)	浜松付近に上陸 浜松最大風速 SE19.8m/S 長津最大風速 SW55.8m/S 日降水量 136mm 最低気圧 978.0mb
明治44年8月4日	死者 17人 建物全半壊 315戸 建物流失 122戸 床上浸水 6,233戸 山、崖崩れ 1,804箇所	熊野灘より伊勢湾東部に上陸 浜松最大風速 E20.0m/S 日降水量 308mm 最低気圧 988.2mb 気多の日降水量 583mm
	建物全半壊 2,393戸 建物流失 82戸 床上浸水 2,081戸	沼津最大風速 SW25.9m/S 最低気圧 978.9mb 29日～30日にかけての雨量 湯ヶ島400mm 大河原487mm
大正7年9月24日	死者 45人 道路、橋、堤防、漁船に被害大	浜松付近に上陸 浜松最大風速 S22.5m/S 総降水量 96mm 最低気圧 956.9mb
大正15年9月4日	死者（全国211人） 106人 建物全壊 1,400戸 建物半壊 1,036戸 一部破損 17,850戸 船舶流失 32隻	浜名湖付近に上陸 浜松最大風速 S37.0m/S 断水 103mm 最低気圧 978.9mb
昭和33年9月25日	死者、行方不明 1,040人 負傷者 813人 建物全壊 353戸 建物半壊 754戸 建物流失 722戸 床上浸水 7,930戸 田畑流埋 1,058ha 田畑冠水 1,697ha 道路、橋、堤防、山崩れ被害	伊豆南端をかすめて関東上陸 三島最大風速 S22.1m/S 湯ヶ島総降水量 753mm 三島最低気圧 970.4mb
昭和34年8月14日	死者、行方不明（全国235人） 18人	伊豆西岸をかすめ富士川河口付近に上陸 最大風速 SWS24.1m/S 総降水量 470mm 最低気圧 973.8mb
昭和34年9月26日	静岡県死者（全国5,041人） 5人 負傷者 56人 建物全壊 441戸 建物半壊 1,635戸 床上浸水 403戸 田畑冠水 3,332ha	紀伊半島へ上陸 浜松最大風速 SSE26.4m/S 瞬間最大風速 SSE42.0m/S 総降水量 130mm 最低気圧 980.8mb
昭和41年9月25日	死者、行方不明（全国318人） 54人 負傷者 227人 建物全壊 386戸 建物半壊 1,287戸 建物流失 9戸 床上浸水 136戸 田畑流埋 20ha 田畑冠水 5,485ha 道路、橋、堤防、山崩れ被害 136箇所	25日0時、台風26号は示度960mbで御前崎の西に上陸、北北東に進み、1時頃梅ヶ島付近を通過、次第に衰弱しつつ本州中部を縦断して三陸沖に去った。 最大瞬間風速 御前崎 ENE50.5m/S 静 岡 SE40.4m/S 三 島 SE42.0m/S 1時間最大雨量 御前崎 63.6mm 静 岡 66.1mm 総降水量は、平野部で100mm内外、山間部では200mm～400mmに達した。特に梅ヶ島では、25日未明突然の土砂流出のため旅館9軒が押し潰され、死者15人、行方不明18人を出した。

2. 昭和45年以降

昭和46年8月31日 台風第23号

被 害 状 況				気 象 概 況	
死 者		1人	道路	501箇所	南鳥島付近に発生した台風は、九州の南海上で急に発達し、中心気圧は915hpaとなった。台風は、九州の大隈半島に上陸した後、進路を北東に転じ、次第に衰えながら四国の土佐湾から淡路島付近、志摩半島、静岡県の南岸を通り房総沖に去った。静岡県南岸を通過するときは、985hpaとなったため、風による被害は少なかったが、雨は県下全域に150mmから300mm、多い所では400mmとなった。そのため被害は、ほぼ県下全域に発生した。
負傷者		8人	橋梁	68箇所	
住 家	全 壊	15戸	河川	213箇所	
	半 壊	65戸	崖崩れ	358箇所	
	一部破損	174戸	電話	836回線	
	床上浸水	1,458戸			
	床下浸水	9,446戸			
非住家		116戸			
流 埋	田	14.5ha			
	畑	26.5ha			
冠 水	田	4,836.3ha			
	畑	767.5ha			

昭和49年7月7日～8日 台風第8号（七夕豪雨）

死 者		44人	文教施設	72箇所	沖の鳥島付近の近海で発生した台風8号は、次第に北上して7月7日夕刻ごろには対馬海峡を通過し、日本海中部に達した。一方梅雨前線は、東海地方西部にあったが、台風8号の北東進にあわせて7月7日夕刻ごろには、静岡県の西部県境に達した。県境に達した梅雨前線の動きは非常に遅く、本県を通過するのに7～10時間を要した。その時、時間雨量50mm～70mmの強雨が継続し、24時間降雨量は508mmという気象台創設以来の大記録となり、この大雨で県下各地では、山・崖崩れ、河川洪水により冠水などの災害が続出し、特に静岡、清水を中心に大水害となった。
負傷者		241人	道路	3,381箇所	
住 家	全 壊	241戸	橋梁	210箇所	
	半 壊	350戸	河川	2,933箇所	
	一部破損	152戸	砂防	77箇所	
	床上浸水	26,452戸	水道	92箇所	
	床下浸水	54,092戸	崖崩れ	4,299箇所	
非住家		2,221戸	鉄道不通	7箇所	
流 埋	田	845.74ha	船舶被害	12隻	
	畑	515.82ha	電話	1,791回線	
冠 水	田	8,082.34ha			
	畑	2,150.74ha			

昭和57年7月31日～8月3日 台風第10号と低気圧による大雨と暴風

被 害 状 況				気 象 概 況	
死 者		2人	文教施設	(61校) 70箇所	7月24日南鳥島付近で発生した台風10号は、大型で並みの勢力（970hpa）を保ちながら、8月2日0時頃渥美半島西部に上陸し、中部、北陸地方を横断し2日未明には日本海に達し、台風による雨はあがった。台風通過後の8月3日には小さな低気圧が太平洋沿岸を通過し、2日夜半から3日夜まで再び大雨となたので、県下は記録的な豪雨となった。静岡市井川、梅ヶ島地区では、道路が寸断され、地区住民、観光客、登山客等が孤立した。 (降り始めてからの総雨量)
負傷者		12人	病院	1箇所	
住 家	全 壊	11戸	道路	1,464箇所	
	半 壊	32戸	橋梁	30箇所	
	一部破損	604戸	河川	1,738箇所	
	床上浸水	875戸	港湾	4箇所	
	床下浸水	2,607戸	砂防	69箇所	
非住家		805戸	水道	177箇所	
流 埋	田	85.4ha	清掃施設	4箇所	
	畑	286.4ha	崖崩れ	1,475箇所	
冠 水	田 畑	570ha	鉄道不通	9箇所	梅ヶ島 1,056mm
		619ha	船舶被害	2隻	井 川 853mm
			電話	399回線	本川根 742mm
			海岸	2箇所	熊 660mm

昭和57年9月12日～13日 前線と台風第18号による大雨と暴風

被 害 状 況					気 象 概 況		
死 者 行方不明者 負傷者		14人 1人 45人	文教施設	139箇所	9月6日グアム島付近で発生した台風18号は、大型で並の勢力968hpaを保ちながら、12日18時に御前崎西方へ上陸し、東日本を横断した。本州南岸沿いに停滞していた前線が、台風の接近に伴い活発化し11日夜半から12日午前にかけて県下到大雨を降らせた。牧ノ原では12日16時～17時の1時間に91mmの豪雨が降った。 (降り始めからの総雨量) 天城山 676mm 牧ノ原 628mm 掛 川 504mm 御前崎 459mm		
			病院	7箇所			
			道路	975箇所			
住 家	全 壊	51戸	橋梁	48箇所			
	半 壊	31戸	河川	1,539箇所			
	一部破損	173戸	港湾	7箇所			
	床上浸水	6,578戸	砂防	21箇所			
	床下浸水	15,328戸	水道	222箇所			
	非住家		4,084戸	清掃施設	5箇所		
流 埋	田	163.1ha	崖崩れ	2,939箇所			
	畑	204.8ha	鉄道不通	6箇所			
冠 水	田	5,036.1ha	船舶被害	5隻			
	畑	576.6ha	電話	784回線			
				海岸	5箇所		

昭和58年9月25日～29日 台風第10号に伴う大雨

被 害 状 況					気 象 概 況		
死 者 負傷者		4人	文教施設	7箇所	9月20日グアム島付近で発生した発生した台風10号は、28日長崎市付近に上陸し、高知県宿毛市付近で温帯低気圧低気圧に弱まった。この低気圧は、前線を伴ってその後も東進を続け県下到大雨を降らせた。水窪ダムでは1時間に94mmの豪雨となり、磐田郡水窪町では町道白倉川線が崩土で寸断され、向島地区が孤立した。 (降り始めからの総雨量) 本川根 346mm 梅ヶ島 321mm 熊 286mm 天城山 282mm		
		1人	道路	215箇所			
住 家	全 壊	3戸	橋梁	12箇所			
	一部破損	3戸	河川	95箇所			
	床上浸水	304戸	港湾	1箇所			
	床下浸水	1,306戸	砂防	1箇所			
非住家		1戸	水道	10箇所			
流 埋	田	0.69ha	崖崩れ	39箇所			
	畑	0.85ha	電話	127回線			
冠 水	田	263ha					
	畑	46ha					

平成16年10月9日 台風第22号による大雨と暴風

被 害 状 況				気 象 概 況		
死 者 行方不明者 負傷者		5人	文教施設	86箇所	10月4日フィリピンの東の海上で発生した台風22号は、沖の鳥島の南海上で非常に強い台風となり、中心気圧920hpa、最大風速50m/Sまで発達し、その後も非常に強い勢力を保ったまま、9日16時に伊豆半島に上陸した。県内は9日午後に暴風域に入り、石廊崎では最大瞬間風速67.6m/Sの非常に強い風を観測した。また、台風の北上に伴い、東海地方から関東地方にかけて停滞していた前線の活動が活発となり、御前崎では9日15時に1時間89mmの豪雨を記録した。	
		1人	病院	1箇所		
		100人	道路	1,128箇所		
住 家	全 壊	130戸	橋梁	17箇所		
	半 壊	277戸	河川	310箇所		
	一部破損	3,913戸	港湾	6箇所		
	床上浸水	310戸	砂防	3箇所		
	床下浸水	1,041戸	水道	3,823箇所		
非住家		1,343戸	清掃施設	6箇所		
流 埋	田	3.38ha	崖崩れ	708箇所		(降り始めからの総雨量)
	畑	203.94ha	鉄道不通	6箇所		
冠 水	田 畑	2.77ha	船舶被害	15隻		御前崎 420.5mm 清水 397mm
		42.07ha	電話	2,800回線		
			電気	135,920戸		
			ガス	1戸		
			ブロック塀	8箇所		

平成22年9月8日 台風第9号による大雨

被 害 状 況				気 象 概 況	
死 者 行方不明者 負傷者		0人	文教施設	10箇所	9月3日沖ノ鳥島付近で発生した台風9号は、6日には南西諸島から東シナ海を北上し、対馬海峡から山陰沖を東北東から東に進み、8日11時に福島県敦賀市付近に上陸した。上陸時の中心気圧は1004hPa、中心付近の最大風速は18m/sであった。その後、中部地方を南東に進み、8日15時に静岡県で熱帯低気圧に変わり、夜、関東の東海上を抜けた。 県内は、台風の接近で7日18時頃から雨が降り出し、8日7時頃から雨雲が発達し、9時に井川で時間56.5ミリ、御殿場で46ミリ、10時には小山町付近で時間110ミリの記録的な大雨を観測した。この後も東部で猛烈な雨が降り続き、小山町付近は16時にも時間120ミリの記録的な大雨を観測した。 (降り始めからの総雨量) 井川224.5ミリ 御殿場218ミリ (静岡県気象台 平成22年台風第9号に関する静岡県気象速報より抜粋) ※被害状況は平成22年10月8日16時現在
		0人	道路・橋梁	36箇所	
		1人	河川	91箇所	
住 家	全 壊	6戸	港湾	2箇所	
	半 壊	7戸	砂防・急傾斜	20箇所	
	大規模半壊	7戸	水道	1,500戸	
	一部破損	0戸	土砂災害	40箇所	
	床上浸水	15戸	農地農業用施設	315箇所	
	床下浸水	115戸	森林	129箇所	
非住家		23戸	鉄道不通	1箇所	
流 埋	田	8.5ha	電気	690戸	
	わさび田	2.7ha			
冠 水	田	171ha			
	畑	ha			

平成23年9月19日 台風第15号による大雨

被 害 状 況					気象概要
死 者 行方不明者 負傷者		3人 0人 155人	文教施設	144箇所	9月13日に日本の南で発生した台風15号は、16日から19日にかけて南大東島の近海で停滞した後、19日に奄美大島近海で強い勢力、20日夜遅くには四国沖で非常に強い勢力となり、強い勢力を維持しながら21日14時頃に浜松市付近に上陸した。 県内では、19日19時頃から山間部を中心に雨が降り始め、台風が浜松市付近に上陸した21日14時頃を中心に、非常に激しい雨を強い風に見舞われ、山間部を中心に総雨量が400～550mmを超える大雨となり、県内各地で30m/秒を上回る最大瞬間風速を観測
			道路・橋梁	323箇所	
			河川	353箇所	
住 家	全 壊	2戸	港湾	12箇所	
	大規模半壊	戸	砂防・急傾斜	11箇所	
	半 壊	8戸	水道	11,391戸	
	一部破損	1,504戸	土砂災害	69箇所	
	床上浸水	34戸	農地農業用施設	54箇所	
	床下浸水	73戸	断水	58箇所	
非住家		189戸	鉄道不通	3箇所	
流 埋	田	3.98ha	船舶被害	4隻	
	畑	4.03ha	電話	80,002回線	
冠 水		1ha	電気	340,100戸	
	畑	390ha	ブロック塀	16箇所	

平成26年10月5日 台風第18号による大雨

被 害 状 況				気 象 概 況	
死 者 行方不明者 負傷者		0人	道路・橋梁	519箇所	台風第18号は、9月29日15時にトラック諸島近海で発生し、10月2日9時にはフィリピンの東で大型で非常に強い台風となった。4日9時には南大東島の東南東の海上に進み、次第に進路を北に変え、5日9時には屋久島の南南東の海上で強い台風となった。その後、進路を北から北東に変え四国の南を進み、5日21時には足摺岬の南の海上、6日3時には潮岬の南南西の海上、6日6時には尾鷲市の東南東の海上を北東に進んだ。6日8時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸し、その後、速度を速め6日9時には静岡市付近を北東に進み、昼過ぎには関東の東海上に達し、6日21時には日本の東で温帯低気圧に変わった。 この台風と前線の影響により、静岡県では5日未明から雨が降り始め、5日夜には雨が強まり6日昼前にかけて大雨となった。伊豆、中部では降り始めからの降水量が400mmを超え、1時間に80mm以上の猛烈な雨が降った所があった。 また、台風の接近により沿岸部を中心に風が強まり、石廊崎では猛烈な風を観測した。海上では5日午後から波が高くなり、6日には石廊崎で12.8mの猛烈なしけとなった。 (静岡地方気象台 平成26年台風第18号に関する静岡県気象速報より抜粋)
		0人	河川	437箇所	
		8人	港湾	6箇所	
住 家	全 壊	0戸	砂防	15箇所	
	半 壊	8戸	崖くずれ	45箇所	
	一部破損	26戸	鉄道不通	5箇所	
	床上浸水	623戸	被害船舶	5箇所	
	床下浸水	1,348戸	水道	632箇所	
非住家		0戸	電気	23,890戸	
流 埋	田	0ha	ブロック塀	4箇所	
	畑	1ha			

平成27年9月7日 台風第18号と前線による大雨

被 害 状 況				気 象 概 況	
死 者 行方不明者 負傷者		0人	文教施設	1箇所	東日本では、太平洋沿岸に停滞する前線の影響により、大気の状態が不安定となった。また、台風第18号が9月7日3時に日本の南で発生し、ゆっくりとした速さで北北西に進んだ。8日3時に硫黄島の西北西を時速25kmで北へ進み、9日1時に八丈島の西南西に達した。9日7時に豊橋市の南を北北西に進んだ後、10時過ぎに愛知県知多半島に上陸した。その後、9日11時に名古屋市付近、13時に小松市の南南東を北北西に進んだ後、21時に日本海中部で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、前線の影響により、6日朝から雨となり、その後の9日は台風の影響により雨が継続し、大雨となった。伊豆では降り始めからの降水量が400mmを超え、1時間に40mm以上の激しい雨となった所があった。 (静岡地方気象台 平成27年台風第18号と前線による大雨に関する静岡気象速報より抜粋)
		0人	道路・橋梁	70箇所	
		5人	河川	5箇所	
住 家	全 壊	0戸	崖くずれ	24箇所	
	半 壊	0戸	電気	3,850戸	
	一部破損	1戸			
	床上浸水	22戸			
	床下浸水	90戸			
非住家		0戸			
流 埋	田 畑	0.07ha			
		0ha			

平成28年8月19日 台風第9号による大雨

被 害 状 況					気 象 概 況	
死 者 行方不明者 重傷者 軽傷者		0人	崖くずれ		0箇所	8月19日15時、マリアナ諸島で発生した台風第9号は発達しながら、20日21時には父島の南南西約400キロ、21日09時には父島の西北西約170キロ、21日21時には八丈島の南約180キロと北に進んだ。台風はその後発達しながら北に進み、22日00時には暴風域を伴い、22日02時には八丈島の西南西約40キロでつい良い台風となった。台風は勢力を保ったまま、22日02時には八丈島の西南西約40キロで強い台風となった。台風は勢力を保ったまま、22日06時には三宅島の南南西約40キロ、22日12時には千葉県館山市付近と北に進み、22日12時半頃、千葉県館山市付近に上陸した。その後、22日15時には茨城県つくば市付近で強い台風ではなくなったが、22日18時には茨城県常陸大宮市付近、22日21時には福島県相馬市付近、23日00時には岩手県一関市付近と、暴風域を伴って関東地方から東北地方を北から北北東に進んだ。23日03時には三陸沖の海上を速度を速めながら北に進み、23日06時ころには北海道日高地方に上陸した。23日09時には北海道北見市付近を北北東に進み、23日12時にはオホーツク海で温帯低気圧に変わった。 静岡県東部・伊豆では、台風の接近により、21日夜から雨が降り始め、22日朝から昼前にかけて非常に激しい雨となった。特に天城山では、降り始めからの総降水量が400ミリを超え、22日09時10分までの1時間い86.0ミリの猛烈な雨となった。また、伊豆では、台風の接近により強風となった。 (静岡県地方気象台 平成28年台風第9号に関する静岡県気象速報より抜粋)
		0人	道路等の通行規制		18路線	
		1人	18区間			
		0人	鉄道	運転見合わせ、運休	7路線	
住 家	全 壊	0棟	船舶		欠航	
	半 壊	0棟				
	一部損壊	1棟	航空機		遅れや欠航	
	床上浸水	0棟				
床下浸水	0棟					
非住家	公共建物	0棟	断水		0戸	
	その他	0棟	停電	東京電力管内	5,080軒	
				中部電力管内	0戸	

平成29年10月16日 台風第21号による大雨

被 害 状 況					気 象 概 況		
死 者 行方不明者 重傷者 軽傷者		0人	崖くずれ		0箇所	10月16日3時にカロリン諸島で発生した台風第21号は、発達しながらフィリピンの東海上を北上し、21日には超大型で非常に強い勢力となり、22日にかけて非常に強い勢力を保ったまま、次第に速度を上げて日本の南を北上した。台風は、22日夜遅くに東海道沖を北北東に進んだ後、23日3時頃に超大型の強い勢力で静岡県御前崎市付近に上陸した。その後、暴風域を伴ったまま東海地方及び関東地方を北東に進み、23日9時には福島県沖に抜け、23日15時に北海道の東で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、台風の接近と前線の影響により、21日未明から雨が降り始め、台風が通過した22日夜遅くから、23日明け方にかけて非常に激しい雨となった。特に天城山では、降り始めからの総降水量が387.0mmとなった。 また、22日夜遅くから23日にかけて非常に強い風となった。台風が上陸した御前崎では日最低海面気圧が952.6hPaを観測するなど県内の広い範囲で気圧が下がった影響で潮位が平常より上がり、沿岸部で高潮による浸水被害が発生した所があった。 (静岡県地方気象台 平成29年台風第21号に関する静岡県気象速報より抜粋)	
		0人	道路等の通行規制		27路線		
		2人	33区間				
		2人	鉄道	運転見合わせ、運休	10路線		
住 家	全 壊 半 壊 一部損壊 床上浸水 床下浸水	0棟		船舶	4路線		平常通り
		0棟					
		2棟					
0棟	航空機	静岡空港	1便欠航				
				9棟			
				0棟	断水	0戸	
非住家	公共建物	0棟					
	その他	1棟	停電		12,970戸		

平成30年7月25日 台風第12号による大雨

被 害 状 況					気 象 概 況	
死 者 行方不明者 重傷者 軽傷者		0人	崖くずれ		0箇所	7月25日3時に日本の南海上で発生した台風第12号は、26日21時には強い勢力となり27日にかけて発達しながら日本の南を北上し、28日は次第に進路を西よりに変え、伊豆諸島付近を北西に進んだ。台風は、暴風域を伴ったまま、強い勢力を維持し東海道沖を西に進み、29日01時頃に三重県伊勢市付近に上陸した。その後、西日本に進み、29日17時半頃に福岡県豊前市付近に上陸し、速度を落としながら九州を南西に進んだ後、九州の西海上を南に進んだ。 静岡県では、台風の接近の影響により、28日昼過ぎから29日未明にかけて強風が吹き、28日夜には暴風となった所があった。また、27日夜遅くから雨が降り始め、28日夕方から29日未明にかけては激しい雨となった所があった。特に伊豆市天城山では、降り始めからの総降水量が175.5mmとなった。 海上では、28日午後から波やうねりが高くなり、石廊崎では4mを超えるしけとなった。 (静岡県地方気象台 平成30年台風第12号に関する静岡県気象速報より抜粋)
		0人	道路等の通行規制		23路線	
		1人	通行規制		26区間	
		8人	鉄道	運転見合わせ	10路線	
住 家	全 壊	0棟				
	半 壊	0棟				
	一部損壊	0棟	船舶	4路線	欠航	
	床上浸水	0棟				
	床下浸水	0棟	航空機	静岡空港	一部欠航	
非住家	公共建物	0棟	断水		0戸	
	その他	2棟	停電		19,700軒	
車両		23台				

平成30年8月28日 台風第21号による大雨

被 害 状 況					気 象 概 況		
死 者 行方不明者 重傷者 軽傷者		0人	崖くずれ		0箇所	8月28日9時に南鳥島近海で発生した台風第21号はマリアナ諸島を発達しながら西に進み、31日9時に猛烈な勢力となった。その後は非常に強い勢力で日本の南海上を北上し、4日は、次第に進路をやや東よりに変え速度を速めながら四国の南海上を北北東に進み、暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して4日12時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま北北東に進み、14時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸、15時に若狭湾に達し、日本海沿岸を北上した後、5日9時に間宮海峡で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、台風の接近の影響により、4日昼過ぎから5日明け方にかけて強風となった。また、台風が接近した4日と、台風が日本海を北上して南から湿った空気が流れ込んだ5日未明から明け方にかけて、山地を中心に非常に激しい雨となった所があった。降り始めからの総降水量は、静岡市井川で352.5mmとなった。 海上では、4日から5日にかけて波やうねりが高くなり、石廊崎では8mに達する大しけとなった。 (静岡県地方気象台 平成30年台風第21号に関する静岡県気象速報より抜粋)	
		0人	道路等の通行規制		23路線		
		0人	32区間				
		2人					
住 家	全 壊	0棟	鉄道	運転見合わせ	6路線		
	半 壊	0棟	船舶	4路線	一部欠航		
	一部損壊	1棟					
	床上浸水	0棟	航空機	静岡空港	欠航、遅れ		
	床下浸水	0棟					
非住家	公共建物	0棟	断水		0戸		
	その他	0棟	停電		4,200戸		

平成30年9月21日 台風第24号による大雨

被 害 状 況					気 象 概 況	
死 者 行方不明者 重傷者 軽傷者		0人	崖くずれ		0箇所	9月21日21時にマリアナ諸島で発生した台風第24号は、フィリピンの東海上を発達しながら西北西に進み、25日00時には猛烈な台風となった。その後、大型で非常に強い台風となり沖縄の南海上を北上し、29日は進路を東よりに変えて沖縄本島、奄美地方に接近し北東に進んだ。30日は、次第に速度を速めながら四国の南海上を北東に進み、暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま更に速度を速めて東海、関東甲信、東北地方を北東に進み、10月1日12時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、台風の接近の影響により、30日夜から強風となり、夜遅くから10月1日未明にかけて広い範囲で暴風となり、猛烈な風を観測した所があった。台風が東北地方の太平洋側に抜ける1日朝まで強風となった。 また、本州の南海上に停滞する前線が北上した影響で、29日明け方から断続的に雨となり、台風が接近した30日夜から10月1日未明にかけては、山地を中心に猛烈な雨となり、降り始めからの総降水量は、静岡市井川で315.5mmとなった。 海上では、9月30日から10月1日にかけて波やうねりが高くなり、石廊崎では11mを超える猛烈なしけとなった。 (静岡地方気象台 平成30年台風第24号に関する静岡県気象速報より抜粋)
		0人	道路等の通行規制		63路線	
		2人	74区間			
		26人	鉄道	運転見合わせ	13路線	
住 家	全 壊 半 壊 一部損壊 床上浸水 床下浸水	0棟	船舶	4路線	概ね欠航	
		0棟				
		18棟	航空機	静岡空港	概ね欠航	
		0棟				
非住家	公共建物 その他	51棟	断水		0戸	
		35棟	停電	東京電力管内	51,200軒	
		中部電力管内		663,390戸		

令和元年10月6日 台風第19号による大雨

被 害 状 況					気 象 概 況	
死 者 行方不明者 重傷者 軽傷者		1人	崖くずれ		373箇所	10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、マリアナ諸島を西に進みながら、7日には大型で猛烈な台風となった。小笠原近海を北北西に進み、12日には北よりに進路を変えて東海道沖を北北東に進んだ。12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日未明に東北地方の東海上に抜けた。（以上、速報解析による） 静岡県では、台風の接近の影響により、11日夜遅くから強風となり、12日明け方から夜遅くにかけて暴風となり、非常に強い風を観測した所があった。台風が宮城県の太平洋側に抜ける13日未明まで強風となった。 また、台風の接近に伴い11日朝から断続的に雨となり、台風が接近した12日昼過ぎから夜のはじめ頃にかけては、中部、東部及び伊豆地方で猛烈な雨となった所があり、降り始めからの総降水量は、湯ヶ島で760.0mmとなった。 沿岸では、台風の接近に伴って潮位が高くなり、気象庁潮位観測点では石廊崎、御前崎、清水港、内浦で過去最高潮位記録を更新し、石廊崎で最大潮位偏差224cmを観測した。 海上では、11日からしけとなり、12日には石廊崎で13mを超える猛烈なしけとなった。 （静岡地方気象台 令和元年台風第19号に関する静岡県気象速報より抜粋）
		1人	道路等の通行規制		86路線	
		2人	鉄道		121区間	
		5人	運輸見合わせ、間引き運転		12路線	
住 家	全 壊 半 壊 一部損壊 床上浸水 床下浸水	1棟	船舶	4路線	欠航	
		0棟				
		83棟	航空機	静岡空港	全便欠航	
		861棟				
1548棟						
非住家	公共建物 その他	33棟	断水		11,000戸	
		68棟	停電	東京電力管内	45,700戸	
		中部電力管内		5,210戸		

令和4年9月23日 台風第15号による大雨

被 害 状 況					気 象 概 況	
死 者 行方不明者 重傷者 軽傷者		2人	崖くずれ		309箇所	9 月 23 日 9 時頃に室戸岬の南約 300km で発生した台風第 15 号は北から北東へと進路をかえながら進み、24 日 9 時には東海道沖で温帯低気圧に変わった。 静岡県では、台風の接近により非常に湿った南風が強まって大気の状態が非常に不安定となり、さらに沿岸に沿って発生した局地的な前線で雨雲が発達し、猛烈な雨となった。これに加えて台風の動きが比較的ゆっくりであったため、同じ地域に猛烈な雨が降る状況が継続し、当初の予想を上回る記録的な大雨となった。西部では 23 日夜のはじめ頃から 24 日未明にかけて、中部では 23 日夜遅くから 24 日明け方にかけて猛烈な雨が降り、記録的短時間大雨情報（1 時間に 110 ミリ以上の雨）を 16 回発表した。これにより、複数の観測点において 1、3、6、12、24、48 時間降水量で観測史上 1 位の値を更新した。その後雨雲は東部、伊豆へと移動し、24日未明から昼前にかけて猛烈な雨や非常に激しい雨となった。 （静岡地方気象台 令和4年台風第15号に関する静岡県気象速報より抜粋）
		1人	道路等の通行規制		8路線 15区間	
		0人	鉄道	運転見合わせ、間引き運転	9路線	
		6人				
住 家	全 壊	2棟	船舶	4路線	一部欠航	
	半 壊	4棟				
	一部損壊	56棟	航空機			
	床上浸水	1,661棟				
	床下浸水	2,759棟				
非住家	公共建物	0棟	断水		63,000戸	
	その他	2棟	停電	東京電力管内	100戸	
				中部電力管内	118,050戸	

資料8-3 藤枝市内の火災状況

市別火災発生状況

(令和6年1月1日～令和6年12月31日まで)

市別比較 区分			藤枝市	焼津市	合計
総 件 数			27	37	64
火災 件数	建 物	件	17	19	36
	林 野		0	0	0
	車 両		5	5	10
	船 舶		0	0	0
	航 空 機		0	0	0
	そ の 他		5	13	18
高 速 道 路	現東名高速道路	件	0	2	2
	新東名高速道路		1	0	1
焼 損 程 度	全 焼	件	6	4	10
	半 焼		0	0	0
	部 分 焼		3	13	16
	ぼ や		12	6	18
建 物 焼 損 面 積		㎡	398	1,522	1,920
建 物 焼 損 表 面 積			16	243	259
林 野 焼 損 面 積		a	0	0	0
損 害 額		千円	34,590	108,166	142,756
焼 損 棟 数		棟	21	23	44
り 災 世 帯 数		世帯	7	14	21
り 災 人 数		人	17	37	54
死 者		人	0	1	1
(放火自殺者)			0	0	0
負 傷 者		人	3	4	7

(注) 死者には放火自殺者も含む。放火自殺者とは自損行為により死に至ったものをいう。

出火原因別火災件数（前年比較）

（▲＝減）単位（件）

区分	年別比較			令和 6 年度			令和 5 年度			増 減		
				(A)	藤枝市	焼津市	(B)	藤枝市	焼津市	(A)－(B)	藤枝市	焼津市
たばこ				7	4	3	9	2	7	-2	2	-4
こんろ				2	1	1	3	0	3	-1	1	-2
かまど				2	0	2	0	0	0	2	0	2
風呂かまど				0	0	0	0	0	0	0	0	0
炉				0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼却炉				0	0	0	0	0	0	0	0	0
ストーブ				3	1	2	3	2	1	0	-1	1
こたつ				0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボイラー				0	0	0	0	0	0	0	0	0
煙突・煙道				0	0	0	1	0	1	-1	0	-1
排気管				2	1	1	3	2	1	-1	-1	0
電気機器				6	2	4	3	1	2	3	1	2
電気装置				2	0	2	2	1	1	0	-1	1
電灯・電話等の配線				2	0	2	4	2	2	-2	-2	0
内燃機関				2	2	0	0	0	0	2	2	0
配線器具				2	2	0	1	0	1	1	2	-1
火あそび				2	2	0	1	0	1	1	2	-1
マッチ・ライター				0	0	0	1	0	1	-1	0	-1
たき火				9	4	5	4	3	1	5	1	4
溶接機・切断機				3	2	1	1	0	1	2	2	0
灯 火				0	0	0	1	1	0	-1	-1	0
衝突の火花				0	0	0	0	0	0	0	0	0
取 灰				1	0	1	1	0	1	0	0	0
火 入 れ				0	0	0	0	0	0	0	0	0
放 火				0	0	0	2	0	2	-2	0	-2
放火の疑い				2	0	2	5	2	3	-3	-2	-1
その他				8	2	6	6	4	2	2	-2	4
不 明				9	4	5	3	1	2	6	3	3
合計				64	27	37	54	21	33	10	6	4

（注）出火原因区分は、火災報告取扱要領国表 0 3 表による。

月別火災発生状況

(令和6年1月1日～令和6年12月31日まで)

区 分		単位	合計	月別											
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
火災件数	合 計	件	64	8	5	7	5	3	4	4	6	3	5	10	4
	建 物		36	4	4	2	3		2	3	3	3	1	8	3
	林 野														
	計		10	1		1	1	1	1		1		2	1	1
	車 両		10	1		1	1	1	1		1		2	1	1
	自動車等														
	鉄 道														
	船 舶														
焼損棟数	航 空 機	棟													
	そ の 他		18	3	1	4	1	2	1	1	2		2	1	
	合 計		44	7	4	2	4		2	3	3	3	1	12	3
	全 焼		10	1			1		1			1		6	
	半 焼														
建物焼損床面積	部 分 焼	㎡	16	3	2	1	3		1	3	1			1	1
	ぼ や		18	3	2	1					2	2	1	5	2
	合 計		1,920	107	74	1	674		133	36	1	147		747	
	建 物 焼 損 表 面 積		259	35			211				3				10
	林 野 焼 損 面 積														
死 者	死 者	人	1											1	
	負 傷 者		7	3	1									1	2
り 災 世 帯	合 計	世帯	22	7	2	2			1		2	3	1	3	1
	全 損		6	1					1			1		3	
	半 損		2	2											
	小 損		14	4	2	2					2	2	1		1
り 災 人 員		人	54	15	8	7					4	7	3	8	2
損 害 額	合 計	千円	142,756	13,169	501	262	45,553	60	28,712	2,413	1,050	28,144	1,385	21,106	401
	建 物		138,495	12,995	501	8	45,339		28,380	2,413	271	28,144		20,443	1
	林 野														
	車 両		3,558	172		231	201	60	332		778		725	650	400
	船 舶														
	航 空 機														
	そ の 他		703	2		23	4				1		660	13	

時間帯別火災発生状況

(令和6年1月1日～令和6年12月31日まで)

区 分		単位	合計	月別												
				0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	不明
火災 件数	合 計	件	64	2	1	5	2	6	9	10	12	5	3	5	3	1
	建 物		36	1	1	4		3	4	6	5	3	2	3	3	1
	林 野															
	計		10			1	1		2		2	1	1	2		
	車 両		10			1	1		2		2	1	1	2		
	鉄 道															
	船 舶															
	航 空 機															
	そ の 他		18	1			1	3	3	4	5	1				

火災発生状況の推移

年次	火災件数 (件)	損害状況 (件)						損害額 (千円)	死傷者 (人)	
		建物	林野	車両	船舶	航空機	その他		死者	負傷者
平成 27 年	59	38	4	7	1		9	152,063	4	16
平成 28 年	57	40	2	3			12	121,347	2	12
平成 29 年	63	28		6	1		28	68,291	8	6
平成 30 年	55	23	2	11			19	53,178	3	6
令和元年	59	30	4	4			21	90,374	2	7
令和 2 年	52	32		8	1		11	302,908	0	12
令和 3 年	63	38	1	8			16	87,429	3	6
令和 4 年	47	30	1	5			11	76,351	0	11
令和 5 年	54	28	1	4			21	127,299	3	4
令和 6 年	64	36		10			18	142,756	1	7

資料8-4

過去の地震被害

1. 明治以降で100人以上の死者・行方不明者を出したおもな地震・津波

発生年月日	地震名	規模(M) (※1)	死者・行方不明者 (人)	最大震度 (※2)	津波	最大震度を観測した観測点 (地方)
明治5年 3月14日	浜田地震	7.1	550	不明	○	——
明治24年 10月28日	濃尾地震	8.0	7,273	(6)		岐阜、愛知、滋賀、三重県の一部
明治27年 10月22日	庄内地震	7.0	726	(5)		山形県の西部
明治29年 6月15日	明治三陸地震	8.5	21,959	(2～3)	○	岩手県を中心に北海道、東北地方
明治29年 8月31日	陸羽地震	7.2	209	(5)		秋田、岩手、山形県の一部
大正12年 9月1日	関東地震 (関東大震災)	7.9	105,000余	(6)	○	東京都、東京など6点
大正14年 5月23日	北但馬地震	6.8	428	(6)		兵庫県、豊岡
昭和2年 3月7日	北丹後地震	7.3	2,925	6	○	京都府、宮津測候所など2点
昭和5年 11月26日	北伊豆地震	7.3	272	6		静岡県三島市東本町
昭和8年 3月3日	昭和三陸地震	8.1	3,064	5	○	岩手県宮古市鉾ヶ崎など6点
昭和18年 9月10日	鳥取地震	7.2	1,083	6		鳥取県鳥取市吉方
昭和19年 12月7日	東南海地震	7.9	1,223	6	○	三重県津市島崎町など2点
昭和20年 1月13日	三河地震	6.8	2,306	5	○	三重県津市島崎町

昭和21年 12月21日	南海地震	8.0	1,330	5	○	和歌山県串本 町潮岬など1 7点
昭和23年 6月28日	福井地震	7.1	3,769	6		福井県福井市 豊島
昭和35年 5月23日	チリ地震津波	☆ 9.5	142	—	○	震度1以上を 観測した地点 なし
昭和58年 5月26日	日本海中部地震	7.7	104	5	○	秋田県秋田市 山王など3点
平成5年 7月12日	北海道南西沖地震	7.8	230	5	○	北海道寿都町 新栄など4点
平成7年 1月17日	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震 災)	7.3	6,437	7	○	神戸市等阪神 淡路地域
平成23年 3月11日	東北地方太平洋沖 地震 (東日本大震災)	9.0	18,580	7	○	東日本
平成28年 4月14日 4月16日	熊本地震	6.5 7.3	255	7 7		熊本県益城町 ・西原村
令和6年 1月1日	能登半島地震	7.6	515	7	○	輪島市門前町 志賀町香能

※1 地震の規模（マグニチュード）ただし、チリ地震津波はモーメントマグニチュード。

※2 1925年以前の地震の震度については気象庁の震度データベースには収録されていない。これらの地震の最大震度については、地震報告・地震年報・気象要覧（中央气象台）によるものを括弧付きで記載した。

なお、この期間の震度は、微・弱・強・烈の階級で記載してあるので、これに対する震度を、1～6におきかえて表現してある。

資料：気象庁HP（過去の地震被害）

☆「モーメントマグニチュード」は、断層面の面積（長さ・幅）と変位の平均量、断層付近の地殻の剛性から算出する断層運動の規模のこと。

2. 震度5弱以上で人的被害があった地震（平成8年以降）

発生年月日	震央地名 地震名	規模 (M)	人的被害 (人)	物的被害	最大 深度	津波 c m
平成8年 12月21日	茨城県南部	5.6	負傷者1	住家一部破損82など	5弱	
平成9年 3月3日	伊豆半島東方沖	5.5	負傷者3	住家一部破損65 崖崩れなど	5弱	
平成9年 3月16日	愛知県東部	5.9	負傷者4	住家一部破損2など	5強	
平成9年 3月26日	鹿児島県薩摩地方	6.6	負傷者37	住家全壊4 半壊34	5強	
平成9年 5月13日	鹿児島県薩摩地方	6.4	負傷者74	住家全壊4 半壊31	6弱	
平成9年 6月25日	山口県北部	6.6	負傷者2	住家全壊1 半壊2	5強	
平成10年 9月3日	岩手県内陸北部	6.2	負傷者9	道路被害など	6弱	
平成12年 6月3日	千葉県北東部 (千葉県東方沖)	6.1	負傷者1	住家一部破損30など	5弱	
平成12年 6月7日	石川県西方沖	6.2	負傷者3	住家一部破損1など	5弱	
平成12年 6月8日	熊本県熊本地方	5.0	負傷者1	住家一部破損5など	5弱	
平成12年 7月1日	新島・神津島近海	6.5	死者1	住家一部破損15など	6弱	7
平成12年 7月15日	新島・神津島近海	6.3	負傷者14	住家半壊7など	6弱	7
平成12年 7月30日	三宅島近海	6.5	負傷者1	住家一部破損1など	6弱	14
平成12年 10月6日	鳥取県西部 ☆平成12年 鳥取県西部地震	7.3	負傷者182	住家全壊435 半壊3,101など	6強	
平成12年 10月31日	三重県中部	5.7	負傷者6	住家一部破損2など	5弱	
平成13年 1月4日	新潟県中越地方	5.3	負傷者2	住家一部損壊 607など	5弱	
平成13年 3月24日	安芸灘 ☆平成13年 芸予地震	6.7	死者2 負傷者288	住家全壊70 半壊774など	6弱	
平成13年 4月3日	静岡県中部	5.3	負傷者8	住家一部損壊80など	5強	

平成14年 2月12日	茨城県沖	5. 7	負傷者1	非住家破損など	5弱	
平成14年 10月14日	青森県東方沖	6. 1	負傷者2	なし	5弱	
平成14年 11月3日	宮城県沖	6. 3	負傷者1	なし	5弱	
平成15年 5月26日	宮城県沖	7. 1	負傷者174	住宅全壊2 半壊21など	6弱	
平成15年 7月26日	宮城県北部 (宮城県中部)	6. 4	負傷者677	住宅全壊1,276 半壊3,809など	6強	
平成15年 9月26日	釧路沖(十勝沖) ☆平成15年 十勝沖地震	8. 0	死者1 不明1 負傷者849	住宅全壊116 半壊368など	6弱	255
平成16年 9月5日	紀伊半島沖 (三重県南東沖)	7. 1	負傷者6	水道管破損など	5弱	66
平成16年 9月5日	東海道沖 (三重県南東沖)	7. 4	負傷者36	住家一部破損2など	5弱	101
平成16年 10月6日	茨城県南部	5. 7	負傷者4	水道管破裂など	5弱	
平成16年 10月23日	新潟県中越地方 ☆平成16年 新潟県中越地震	6. 8	死者67 負傷者4,805	住宅全壊3,175 半壊13,794など	7	
平成16年 11月29日	釧路沖	7. 1	負傷者52	住宅一部破損4など	5強	12
平成16年 12月6日	釧路沖	6. 9	負傷者12	校舎一部破損など	5強	
平成16年 12月14日	留萌支庁南部	6. 1	負傷者8	住宅一部破損165	5強	
平成17年 1月18日	釧路沖	6. 4	負傷者1	校舎一部破損など	5強	
平成17年 2月16日	茨城県南部	5. 3	負傷者26	ブロック塀倒壊	5弱	
平成17年 3月20日	福岡県西方沖 (福岡県北西沖)	7. 0	死者1 負傷者1,087	住家全壊133 半壊244など	6弱	
平成17年 4月11日	千葉県北東部	6. 1	負傷者1	窓ガラス破損	5強	
平成17年 4月20日	福岡県西方沖 (福岡県北西沖)	5. 8	負傷者58	住家一部破損279 建物火災1	5強	
平成17年 6月3日	熊本県天草・ 芦北地方	4. 8	負傷者2	なし	5弱	
平成17年 6月20日	新潟県中越地方	5. 0	負傷者1	住家一部破損5など	5弱	

平成17年 7月23日	千葉県北西部	6. 0	負傷者 38	住家一部破損 12 など	5 強	
平成17年 8月16日	宮城県沖	7. 2	負傷者 100	住家全壊 1 住家一部破損 984 など	6 弱	1 2
平成17年 8月21日	新潟県中越地方	5. 0	負傷者 2	なし	5 強	
平成17年 10月19日	茨城県沖	6. 3	負傷者 2	なし	5 弱	
平成18年 6月12日	大分県西部	6. 2	負傷者 8	住家一部破損 5	5 弱	
平成19年 3月25日	能登半島沖	6. 9	死者 1 負傷者 356	住家全壊 686 住宅半壊 1,740	6 強	2 2
平成19年 4月15日	三重県中部	5. 4	負傷者 13	住家一部損壊 122	5 強	
平成19年 7月16日	新潟県中越沖	6. 8	死者 15 負傷者 2,346	住家全壊 1,331 住家半壊 5,709	6 強	3 2
平成19年 8月18日	千葉県南部	4. 8	負傷者 1	なし	5 弱	
平成19年 10月1日	神奈川県西部	4. 9	負傷者 2	住家一部損壊 5	5 強	
平成20年 5月 8日	茨城県沖	7. 0	負傷者 6	なし	5 弱	
平成20年 6月14日	岩手県内陸南部	7. 2	死者 17 不明 6 負傷者 426	住家全壊 30 住家半壊 146	6 強	
平成20年 7月24日	岩手県沿岸北部	6. 8	死者 1 負傷者 211	住家全壊 1 住家半壊 379	6 弱	
平成21年 8月11日	駿河湾	6. 5	死者 1 負傷者 319	住家全壊 5 住家半壊 7913	6 弱	3 6
平成21年 12月17日	伊豆半島東方沖	5. 0	負傷者 7	住家一部損壊 278	5 弱	
平成21年 12月18日	〃	5. 1	〃	〃	5 弱	
平成22年 2月27日	沖縄本島近海	7. 2	負傷者 2	住家一部損壊 4	5 弱	1 0
平成22年 3月13日	福島県沖	6. 7	負傷者 1	住家一部破損 2	5 弱	
平成23年 3月9日	三陸沖	7. 3	負傷者 3	住家一部破損 1	5 弱	5 5
平成23年 3月11日	三陸沖	9. 0	死者 16. 278 不明 2. 994 負傷者 6. 179	住家全壊 129, 198 住家半壊 254、38 住家総合 715	7	9 3 0

平成23年 3月12日	長野新潟県境	6. 7	死者3 負傷者57	住家全壊73 住家半壊427	6強	
平成23年 3月15日	静岡県東部	6. 4	負傷者75	住家半壊103 住家一部破損984	6強	
平成23年 4月1日	秋田県内陸北部	5. 0	負傷者1	住家一部破損2	5強	
平成23年 4月7日	宮城県沖	7. 2	死者4 負傷者296		6強	
平成23年 4月11日	福島県浜通り	7. 0	死者4 負傷者10		6弱	
平成23年 8月1日	駿河湾	6. 2	負傷者13	住家一部破損16	5弱	
平成23年 8月19日	福島県沖	6. 5	負傷者2		5弱	
平成23年 11月20日	茨城県北部	5. 3	負傷者1		5強	
平成23年 11月21日	広島県北部	5. 4	負傷者2		5弱	
平成24年 1月28日	山梨県東部・ 富士五湖	5. 4	負傷者1		5弱	
平成24年 3月1日	茨城県沖	5. 3	負傷者1		5弱	
平成24年 3月14日	千葉県東方沖	6. 1	死者1 負傷者1	住家一部損壊3	5弱	
平成24年 3月27日	岩手県沖	6. 6	負傷者2		5弱	
平成24年 7月10日	長野県北部	5. 2	負傷者3	住家一部破損9	5弱	
平成24年 8月30日	宮城県沖	5. 6	負傷者4		5強	
平成24年 12月7日	三陸沖	7. 3	死者1 負傷者15	住家一部破損1	5弱	
平成25年 2月2日	十勝地方南部	6. 5	負傷者14	住家一部破損1	5強	
平成25年 4月13日	淡路島付近	6. 3	負傷者35	住家全壊8 住家半壊101 住家一部破損8,305	6弱	
平成25年 4月17日	三宅島近海	6. 2	負傷者1		5強	
平成25年 4月17日	宮城県沖	5. 9	負傷者2		5弱	

平成25年 8月4日	宮城県沖	6.0	負傷者 4		5 強	
平成25年 9月20日	福島県浜通り	5.9	負傷者 2	住家一部破損 2	5 強	
平成26年 3月14日	伊予灘	6.2	負傷者 21	住家一部破損 57	5 強	
平成26年 5月5日	伊豆大島近海	6.0	負傷者 15		5 弱	
平成26年 7月5日	岩手県沖	5.9	負傷者 1		5 弱	
平成26年 7月8日	胆振地方中東部	5.6	負傷者 3		5 弱	
平成26年 9月16日	茨城県南部	5.6	負傷者 10	住家一部破損 1,060	5 弱	
平成26年 11月22日	長野県北部	6.7	負傷者 46	住家全壊 77 住家半壊 137 住家一部破損 1,626	6 弱	
平成27年 5月25日	埼玉県北部	5.5	負傷者 3		5 弱	
平成27年 5月30日	小笠原諸島西方沖	8.1	負傷者 13		5 強	
平成27年 7月10日	岩手県内陸北部	5.7	負傷者 2		5 弱	
平成27年 7月13日	大分県南部	5.7	負傷者 3	住家一部破損 3	5 強	
平成27年 9月12日	東京湾	5.2	負傷者 7		5 弱	
平成28年 1月14日	浦賀沖	6.7	負傷者 2	非住家公共建物 1	5 弱	
平成28年 4月14日～	熊本県熊本地方	7.3	死者 271 負傷者 2,808	住家全壊 8,668 住家半壊 34,718 住家一部破損 162,557	7	
平成28年 5月16日	茨城県南部	5.5	負傷者 1	住家一部破損 2	5 弱	
平成28年 6月16日	内浦湾	5.3	負傷者 1	住家一部破損 3	6 弱	
平成28年 10月21日	鳥取県中部	6.6	負傷者 32	住家全壊 18 住家半壊 312 住家一部破損 15,095	6 弱	
平成28年 11月22日	福島県沖	7.4	負傷者 21	住家一部破損 9	5 弱	1 4 4

平成28年 12月28日	茨城県北部	6. 3	負傷者 2	住家半壊 1 住家一部破損 25	6 弱	
平成29年 6月25日	長野県南部	5. 6	負傷者 2	住家一部破損 27	5 強	
平成29年 7月1日	胆振地方中東部	5. 1	負傷者 1		5 弱	
平成29年 7月11日	鹿児島湾	5. 3	負傷者 1		5 強	
平成29年 10月6日	福島県沖	5. 9	負傷者 1		5 弱	
平成30年 4月9日	鳥取県西部	6. 1	負傷者 1	住家全壊 16 半壊 58	5 強	
平成30年 6月18日	大阪府北部	6. 1	死者 6 負傷者 462	住家全壊 21 半壊 483	6 弱	
平成30年 9月6日	胆振地方中東部	6. 7	死者 43 負傷者 782	住家全壊 469 半壊 1,660	7	
平成31年 1月3日	熊本県熊本	5. 1	負傷者 4	住家一部損壊 60	6 弱	
平成31年 2月21日	胆振地方中東部	5. 8	負傷者 6	住家一部損壊 19	6 弱	
令和元年 5月10日	日向灘	6. 3	負傷者 3		5 弱	
令和元年 5月25日	千葉県北東部	5. 1	負傷者 1		5 弱	
令和元年 6月18日	山形県沖	6. 7	負傷者 43	住家半壊 28 一部損壊 1580	6 強	1 1
令和元年 8月4日	福島県沖	6. 4	負傷者 1	住家一部損壊 1	5 弱	
令和2年 3月13日	石川県能登地方	5. 5	負傷者 2		5 強	
令和2年 6月25日	千葉県東方沖	6. 1	負傷者 2	住家一部損壊 5	5 弱	
令和2年 9月4日	福井県嶺北	5. 0	負傷者 13		5 弱	
令和2年 12月21日	青森県東方沖	6. 5	負傷者 1		5 弱	
令和3年 2月13日	福島県沖	7. 3	死者 1 負傷者 187	住家全壊 69 半壊 729 住家一部損壊 19758	6 強	
令和3年 3月20日	宮城県沖	6. 9	負傷者 11	住家一部損壊 2	5 強	
令和3年 5月1日	宮城県沖	6. 8	負傷者 4		5 強	

令和3年 10月6日	岩手県沖	5.9	負傷者3	住家一部損壊1	5強	
令和3年 10月7日	千葉県北西部	5.9	負傷者49	建物火災1	5強	
令和3年 12月3日	紀伊水道	5.4	負傷者5	住家一部損壊2	5弱	
令和4年 1月22日	日向灘	6.6	負傷者13	住家一部損壊1	5強	
令和4年 3月16日	福島県沖	7.4	死者4 負傷者247	住家全壊 217 半壊 4556 住家一部損壊 52162	6強	20
令和4年 6月19、20 日	石川県能登地方	5.4	負傷者7	住家一部損壊62	6弱	
令和4年 11月9日	茨城県南部	4.9	負傷者1		5強	
令和5年 5月5日	石川県能登地方	5.9 6.5	死者1 負傷者49	住家全壊30 住家半壊169 住家一部破損535	5強 6強	
令和5年 5月11日	千葉県南部	5.2	負傷者9	住家一部破損17	5強	
令和5年 6月11日	苫小牧沖	6.2	負傷者1		5弱	
令和6年 1月1日	石川県能登地方	7.6	死者241 負傷者1299	住家全壊8789 住家半壊18813 住家一部破損83154	7	80
令和6年 3月15日	福島県沖	5.8	負傷者4		5弱	
令和6年 4月2日	岩手県沿岸北部	6.0	負傷者2		5弱	
令和6年 4月17日	豊後水道	6.6	負傷者16	住家一部破損10	6弱	
令和6年 8月8日	日向灘	7.1	負傷者16	住家全壊1 住家半壊1 住家一部破損81	6弱	51
令和6年 8月9日	神奈川県西部	5.3	負傷者3	住家一部破損6	5弱	
令和7年 1月13日	日向灘	6.6	負傷者4	住家一部破損2	5弱	23

☆で示したものは、気象庁が命名した地震名である。

・平成18年10月2日に震央地名を一部見直した。これにより、平成8年から平成18年10月1日までの被害のあった地震で、地震発生当時の震央地名と現在の震央地名が違っているものについては、「地震発

生当時の震央地名（現在の震央地名）」と併記した。

- ・「平成２８年熊本地震」における最大規模の地震（４月１６日１時２５分熊本県熊本地方の地震）を記載
資料：気象庁ＨＰ（過去の地震被害）